

【主催事業1】

1 事業名 たけのこホリデイ①②

2 期 日 ①令和3年4月11日（日） ②令和3年4月17日（土）

3 参加者 ①19家族 69人 ②12家族 37人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

野外活動に興味・関心のある家族に、たけのこ掘りや自然散策等の体験を通して、自然の恵みに感謝するとともに、家族の絆を深める機会とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

参加対象者を、野外活動に興味があり、自然の中で季節を感じたい、家族で楽しみたい方々にしぼった。特にたけのこ掘りを通して、春の季節を身近に感じてもらうことが企画のポイントである。

5 日 程

【4月11日（日） 4月17日（土）】

9:30～9:45	9:45～10:30	10:30～10:45	10:45～11:30
受付 (第1グループ)	○たけのこについて説明 ○たけのこ掘り体験 ○アンケート記入, 解散	受付 (第2グループ)	○たけのこについて説明 ○たけのこ掘り体験 ○アンケート記入, 解散

6 参加者の感想

- 竹の説明や掘り方の説明も詳しく丁寧に教えてもらえて、とてもよかったです。
- たけのこから竹になることや、たけのこの土の中の様子を初めて見ることができ、子どもたちはすごく興奮していました。また来たいです。
- たけのこから竹に変化している様子を、実際に竹の皮を外しながら子どもに見せてくださり、色々親切にしてください、ありがとうございました。楽しかったです。夕ご飯においしくいただきます。
- 子どもたちが、1年に1度の珍しい体験を、とても喜んで楽しそうにしていました。

7 成果と課題

〈成果〉

- 家族単位に職員一人を配置した。その結果、たけのこ掘りが初めての家族や支援が必要な家族にも、個別に対応でき、安心感をもって参加していただけた、好評だった。
- 家族単位での活動を中心とした。その結果、親子の会話や協力する姿が随所に見られ、楽しく活動ができていた。
- 実際に地下茎を見ていただいた。その結果、たけのこや竹の生態を学ぶ機会を提供することができた。

〈課題と対策〉

- 同一日内で、前後半の2グループに分け、1家族に職員一人を配置し、家族単位で活動するのは好評であるが、参加家族数が限られてくるので、開催方法の検討が必要である。
- たけのこを使った調理体験を希望する声があった。新型コロナウイルス感染症の状況や県の動向等を踏まえ、参加者のニーズに対応するための検討が必要である。
- 持続可能なたけのこホリデイ実施に向け、間引きや剪定、伐採の他、草刈り、肥料など、竹林の継続的な整備を行うことが必要である。また、たけのこ掘りについての職員の知識やスキルアップが重要である。



【主催事業2】

1 事業名 ファミリーデイキャンプ春物語

2 期 日 令和3年5月22日（土）

3 参加者 14家族 48人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

野外活動に興味・関心のある家族が、豊かな自然の中で、キャンプなどの野外活動を体験し、自然の大切さを感じるとともに、家族の絆を深める機会とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

参加者に、キャンプを身近に感じ、野外活動に対して自信をもてるように、インナーテントの設営体験を行った。また、焼きりんご体験を行うことで、低学年の児童や未就学児も含め、家族全員で野外調理を体験することができるようにした。



5 日 程

9:00 ～9:30	9:30 ～9:45	9:45 ～10:45	10:45 ～13:30	13:30 ～14:00	14:00 ～14:45	14:45 ～15:00
集合 受付	出合いのつどい オリエンテーション	【活動1】 「インナーテント 設営体験」 雨天時：体育館	【活動2】 「家族でバーベキュー」 「焼きりんご体験」 雨天時：東ピロティ	【活動3】 「くつろぎタイム」 雨天時：体育館	【活動4】 「インナーテント 撤収体験」 雨天時：体育館	アンケート 記入 解散

6 参加者の感想

- 大人が一人だけの参加だったが、テント設営の際は職員の手伝いがあり助かった。
- コロナ禍で参加をためらったが、安心、安全な対策をしていただき楽しむことができた。
- あまりアウトドアには詳しくないので、教えてもらったり助けてもらったりして、子どもがとても喜んでた。同様なイベントを継続していただけたらうれしい。

7 成果と課題

〈成果〉

- 子どもが簡単な調理に参加できるようにするために、焼きりんご体験を設定した。その結果、包丁を使ったり、芯をくり抜いたりする作業に親子で楽しみながら取り組むことができた。
- 大人が一人の家族でも安心して活動に取り組めるように、テント設営・撤収体験で、職員の配置を工夫した。その結果、安心、安全に活動に取り組むことができた。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、家族間の距離を十分にとり、使用する用具等も家族ごとに準備をした。その結果、参加者から「安心して参加できた」との意見をいただくことができた。

〈課題と対策〉

- テント設営・撤収では、幼児のいる家族は大変そうであった。今後は、家族（子ども）の年齢構成も考慮した職員の配置を心掛ける必要がある。
- 雨天や雨上がりの場合など、天候や状況に応じた活動場所の設定について、事前に確認をしておく必要がある。



【主催事業3】

1 事業名 ファミリーキャンプ夏物語

2 期日 令和3年7月17日（土）～7月18日（日）

3 参加者 15家族59人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

野外活動に興味・関心のある家族が、豊かな自然の中で、キャンプなどの野外活動を体験し、自然の大切さを感じるとともに、家族の絆を深める機会とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

テント設営や野外炊事を通して、家族で協力して準備や片付けに取り組むことで家族のふれ合いの時間を増やすことを特色としている。

企画のポイントとして、自然の中で火を見つめ、ゆっくりとした時間を過ごすことができるように、「チェアリング」を取り入れた。また、親子で自然を感じることができるように、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」やアスレチックでの活動の時間を設定した。



5 日程

	13:15 ～ 13:30	13:30～14:00	14:00～16:00	16:00～19:00	19:00 ～20:00	20:00 ～21:00	21:00
一 日 目	集 合 受 付	出 会 い の つ ど い オ リ エン テ ー シ ョ ン	【活動1】 「テント設営」 雨天時：インナーテント (体育館)	【活動2】 「夕食づくり」 バーベキューと飯ごう炊飯 簡単おやつ作り ※ 食材、米：持参	【活動3】 チェアリング 火を囲んで ゆっくりタイム	入浴タイム 団らんタイム	就 寝
二 日 目	6:00 起 床 ラジオ体操	7:00～9:00 【活動4】 「朝食づくり」 ホットサンド、スープ等	9:00～10:00 家族で自然散策 雨天時：親子レクリ エーション	10:00～11:00 【活動5】 「テント撤収」	11:00 ～11:30 アンケート 記入後解散		



6 参加者の感想

○ スモア、ホットサンドのどちらも簡単で上手にでき、大満足だった。飯ごうで炊いたご飯がとてもおいしかった。

○ チェアリングをしながら、ゆっくりと落ち着いた時間を過ごすことができた。

7 成果と課題

〈成果〉

○ 参加者が、火を囲みながらゆっくりとした時間を過ごすことができるように、ボンファイヤー、チェアリング、子ども向けの読み聞かせを行った。その結果、火を見ながら心を落ち着け、穏やかな時間を過ごす参加者の姿が見られた。

○ 自然をじっくりと観察することができるようにネイチャーゲーム（カモフラージュ）を行った。その結果、参加者が自然に親しむことができた。

〈課題と対策〉

○ ボンファイヤーを行う際には、子どもたちが近づき過ぎて危ない場面が見られたので、囲いを作るなど、安全面の対策を十分に行う必要がある。

○ 環境保全の意識を高めるために、マイ箸、マイカップの持参の呼びかけを行ったが、準備している参加者が少なかった。今後チラシ等において、持参の意図が参加者に伝わるような工夫を行いたい。

【主催事業 4】

- 1 事業名 ファミリーキャンプ秋物語
- 2 期 日 令和3年10月30日（土）～10月31日（日）
- 3 参加者 11家族36人
- 4 事業内容



(1) 事業の趣旨

野外活動に興味・関心のある家族が、豊かな自然の中で、キャンプなどの野外活動を体験し、自然の大切さを感じるとともに、家族の絆を深める機会とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

テント設営や野外炊事を通して、家族で自然の豊かさや季節の移ろいを感じてもらうことが本事業の特色である。

企画のポイントとして、薪を使って「我が家のカレー」を調理する野外炊事を設定し、家族がゆとりを持って活動に取り組めるようにした。また、秋の自然を感じてもらうために、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」を取り入れた。

5 日程

	13:00	13:30～14:00	14:00～16:00	16:00～19:30	19:30 ～20:30	20:30 ～21:30	21:30
一日目	集合 受付	出会いのつどい オリエンテーション	【活動1】 「テント設営」 雨天時：体育館	【活動2】 「野外炊事（夕食づくり）」 我が家のカレーを つくろう	【活動3】 「ナイトウォーク」 雨天実施	団らんタイム 入浴タイム	就寝
二日目	起床 ラジオ体操	【活動4】 「野外炊事（朝食づくり）」 ご飯、みそ汁、焼き魚等	【活動5】 「レクリエーション」 ＜遊びリンピック＞	【活動6】 「テント撤収」	11:30 ～11:45 アンケート 記入後解散		

6 参加者の感想

- 自然の中で過ごすことの素晴らしさを再確認することができた。
- 子どもが「また来たい」と言っていた。楽しい時間を過ごすことができた。
- 家族で初めてのキャンプを楽しむことができた。

7 成果と課題

〈成果〉

- 夕食づくりでは、薪を使って「我が家のカレー」を調理する野外炊事を設定した。その結果、家族がゆとりをもって活動に取り組み、幼児や小学生でも、調理に積極的に協力する姿が見られた。
- 夜の活動でナイトウォークを設定した。その結果、暗い中、家族でまとまって行動し、夜の森の様子を感じたり、夜景に感動したり、楽しい時間を過ごすことができた。
- 秋の自然を感じてもらうために、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」を取り入れた。その結果、家族で自然を観察しながら、自然物と人工物の違いについて考える機会となった。

〈課題と対策〉

- 未就学児の参加が増えてきているため、野外炊事については、より分かりやすく、安全に実施できる内容や場の設定を考える必要がある。

【主催事業5】

- 1 事業名 **社会教育セミナー**
- 2 期 日 令和3年12月2日（木）
- 3 参加者 66人
- 4 事業内容



(1) 事業の趣旨

社会教育の果たす役割について理解を深めるとともに、講義や演習を通して、体験活動の意義や知識、技能を身に付け、実践的指導力の向上を図りながら相互の交流を行う。

(2) 事業の特色・企画のポイント

県教育庁社会教育課から講師を招き、本県の現状に即した具体的な内容の展開ができるよう工夫したり、レクリエーションや自然体験活動など、即実践的な内容を取り入れたり工夫した。

5 日 程

9:00	9:20	9:30 ~ 11:00	11:00	11:10 ~ 12:20	12:20	13:20 ~ 14:20	14:20 ~ 15:20	15:20	15:30 ~ 16:30	~16:40
受 付	開 会 行 事	① 講義 社会教育とは	休 息	② 演習 効果的なグル ープワークト レーニング& 野外炊事	昼 食	③ 演習 すぐに使える アイスブレ イキング・レ クリエーションの 実際	④演習 自然体験活 動	休 息	⑤講義・演習 青少年教育の プログラムづ くり	閉 会 行 事

6 参加者の感想

- 社会教育を行う上で、基本となる視点について改めて知ることができました。
- 実際に体験することで、レクリエーションの効果がより実感できると感じました。
- 先生方とも交流ができて、非常に有意義だった。
- コロナ禍で仕方ないと思いますが、1つ1つの研修にもう少し実践の時間がほしかった。

7 成果と課題

〈成果〉

- 県教育庁社会教育課から講師を招き、講義を行った。その結果、本県の現状に即した具体的な内容の展開ができた。
- 参加対象を教職員の初任者研修や、社会教育に携わってから比較的年数がたっていない人も含めた。その結果、興味関心をもって参加していた。
- レクリエーションや自然体験活動など、即実践的な内容を取り入れたことで、参加者の反応も良く好評だった。



〈課題と対策〉

- 基本的な新型コロナウイルス感染症対策を施して実施したが、改善できる部分があったため、さらに徹底していきたい。
- 2日間を1日という日程に凝縮し、精選して講義や演習に取り組んだ。そのため、全体的に窮屈な日程となった。更に時間に余裕を持った日程の設定が必要である。

【主催事業6】

1 事業名 自然素材で作るクリスマスリース・ミニリース

2 期 日 令和3年12月12日（日）

3 参加者 26 家族 89 人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

木の葉や木の実などの自然素材を使ったクリスマスリース・ミニリースづくりに取り組むことを通して、自然の豊かさや素晴らしさ、季節感を味わうとともに、家族で協力し、絆を深める機会とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

本センター内を家族で散策し、自然素材を採取することで、自然の豊かさや季節の移ろいを感じてもらうことが本事業の特色である。

企画のポイントとして、クリスマスリースを家族で協力して作品を作る「家族deリース」、ミニリースを小学生以上が一人1作品作る「自分deリース」として企画した。



5 日 程

内 容	受付	オリエンテーション	自然素材集め ※ 雨天中止	リースづくり アンケート記入、解散
家族deリース	9:00~9:15	9:15~9:20	9:20~10:20	10:20~12:00
自分deミニリース	13:00~13:15	13:15~13:20	13:20~14:20	14:20~15:20

※ 雨天のため自然素材集めが中止になった場合は、事前に採取した自然素材を使用する。

6 参加者の感想

- 親子で話し合いながら作り上げることで喜びや嬉しさを感じることができた。
- 自然散策はそれだけで癒やしたと思った。青少年研修センターの自然の豊かさを感じることができた。
- 子どもとの楽しい時間を過ごすことができた。



7 成果と課題

〈成果〉

- 自然素材集めにおいて、採集植物、採集場所、移動経路を見直した。その結果、より安全に親子で自然に親しむことができた。
- 自然素材集めの前に、完成のイメージや採集する植物のサイズ、本数等を具体的に示した。その結果、採集植物のロスを減らすことができ、参加者が主体的に制作する姿が見られた。

〈課題と対策〉

- 自然素材集めでは、集める時間を確保するためにも、移動時間ができるだけ短くなるようにコース設定をする必要がある。
- 自然素材の紹介や作り方の説明等は、より簡潔に分かりやすくし、家族で取り組む時間をより多く確保したい。

【主催事業7】

1 事業名 冬の星空観望会～ふたご座流星群と冬のダイヤモンド～

2 期 日 令和3年12月14日（火）

3 参加者 66人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

冬の星空を観望することを通して、宇宙の雄大さにふれるとともに、冬の星座や天体に対する興味・関心を高める機会とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

ふたご座流星群の極大日に合わせた日程で、流星群の観望を主活動に据えた。流星や星空の観望をより楽しめるよう、解説の内容や解説と観望の時間設定を工夫したり、放射点を観測できるよう場の設定を工夫したりした。

5 日 程

19:00～19:30	19:30～20:45	20:45～21:00
受付	星の観望（曇天時：冬の星空についての説明等） ・ふたご座流星群の説明 ・冬のダイヤモンドの説明	アンケート記入 解散

6 参加者の感想

- 子どもが習っていたのでタイムリーだった。
- おもしろく、久しぶりに星のことを学べた。
- 初めて流星群を見ることができてとてもうれしかった。子どもたちも大喜びだった。
- 寝転がって空を見ることができるなんてなかなか経験できないことなので、とてもよかった。

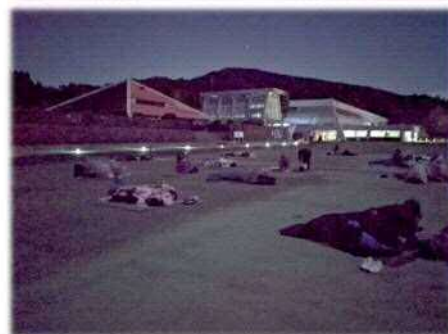
7 成果と課題

〈成果〉

- 平日ではあったが、ふたご座流星群の極大日に合わせて日程を設定した。その結果、多くの流星を観測することができた。
- チラシ等で観望時の防寒対策について具体的に呼びかけた。その結果、参加者が寝袋や断熱マット、ブランケットなどを各自で持参し、防寒対策をとった上で観望することができた。
- 会場をつどいの広場西側に設定した。その結果、実際にふたご座流星群の放射点を指し示すことができ、参加者も放射点を意識しながら観望することができた。
- 会場にパイプ椅子に加えて箱椅子も用意した。その結果、身を寄せ合いながら暖をとるなど、家族のふれあいの時間をつくることができた。また、パイプ椅子と高さの違いが生まれ、会場全体からスクリーンが見やすくなった。

〈課題と対策〉

- 当日受付のため参加者数の予想が難しい。今年度は予想よりも参加者が多く、椅子などを追加する必要があった。大人数が来ても対応できるように準備をしておきたい。
- 曇天時（屋外での観望ができない場合）も想定して、準備を進めておきたい。



【主催事業8】

1 事業名 家族で楽しむ正月飾り～ミニ門松作り～

2 期 日 令和3年12月18日（土）

3 参加者 34家族105人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

正月にちなんだミニ門松作りを通して、日本の文化にふれる機会とするとともに、家族の共同作業を通してふれ合いを深め、創作活動の楽しさを味わう。

(2) 事業の特色・企画のポイント

日本の伝統文化に親しみをもたせるために、作り方の説明時、パワーポイントを用いて門松に関する由来や歴史に触れる。親子で協力して竹を切る作業をするために、真竹を斜めに切る補助器具を積極的に利用することで、制作工程の時間の目安を示す。



5 日 程

内 容	受 付	オリエンテーション	ミニ門松づくり
午前の部	9:15～	9:30 ～ 9:35	9:35 ～ 12:00
午後の部	13:15～	13:30 ～ 13:35	13:35 ～ 16:00

6 参加者の感想

- 門松の由来から説明していただき、なかなか体験できないことを親子で経験させていただきました。
- 年々門松が立派になっていく気がします。すごいです。
- 思っていたより、本格的に作る場所がすごいです。子どもには、とても良い経験になりました。
- 今年は、子どもが楽しく、自発的に作品作りに取り組みました。



7 成果と課題

〈成果〉

- 日本の伝統文化に親しみをもたせるために、作り方の説明時、門松に関する由来や歴史に触れた結果、参加者は、正月について学びを深めることができた。
- 親子で協力して竹を切る作業をするために、真竹を斜めに切る補助器具を積極的に利用した結果、子ども達ものこぎりを使って積極的に取り組むことができ、制作時間短縮にもつながった。
- 制作工程の時間の目安を示した結果、見通しをもって取り組んでもらえ、時間が不足した家族はなかった。



〈課題と対策〉

- より達成感を味わったり、成就感につながったりするよう職員の支援を最小限にしたが、参加者の自由度をより上げたい。デザインや飾り付けでは、オリジナルを推奨する。
- 真竹を安定して供給できるよう、採集場所の新規開拓や定期的な竹林の環境整備が必要である。提供場所になるような箇所に関係者に、事前に打診する。

【主催事業9】

1 事業名 青少研ほっとスペース

2 期 日 毎週水曜日（通年）

【令和3年度の実績】

4月14日 4月21日 5月19日 6月16日 6月30日

7月14日 9月29日 10月6日 12月15日

3 参加者 10家族20人

4 事業内容

(1) 事業の趣旨

不登校及び不登校傾向の児童生徒を対象に、自然豊かで開放的な環境を最大限に生かし、気分転換や体を動かす場を提供しながら、体験活動や人との関わりを通して、自己を見つめる機会を提供することを目的とする。

(2) 事業の特色・企画のポイント

不登校及び不登校傾向の児童生徒に家から出て活動する機会を提供し、自分で考えた活動に取り組みさせることで気力・体力の充実を図るとともに、自己肯定感を味わわす。また、他の参加者や職員との関わりの中で、自分のよさに気づき、他者とのつながりを感じる機会を通して、自己有用感を高めるようにした。



5 日 程（例）

時 間	活 動 内 容
10:00 ～ 10:10	受付（検温，健康観察，活動内容の説明）
10:10 ～ 10:30	活動1 「イチゴ，ヒマワリ等の苗の手入れ・観察」
10:30 ～ 11:50	活動2 「青少研もるつく」
11:50 ～ 12:00	活動の振り返り

6 参加者の様子（6月30日の記録から）

「イチゴ，ヒマワリ等の苗の観察」では、前回植えたときよりも成長していることを喜んでいた。「青少研もるつく」では、点数付けと記録の係を担当し、より主体的に活動できた。活動中は、見通しをもちながら、どのスキットルを狙うかよく考えて投げ、狙い通りの結果にならなくても、満面の笑みを浮かべながら楽しく活動に参加できていた。

7 成果と課題

〈成果〉

- 自然豊かな環境を有効に活用し、参加者の興味・関心のあることから、自発的な活動を展開していくことで、達成感・成就感を味わわせながら少しずつ自己肯定感・自己有用感を高めることができた。また、保護者の気分転換の場にもなっていた。

〈課題と対策〉

- 学校及び関係機関との連携を密にしながら、より効果的な支援ができるよう努めていく。

おわりに

「雪に耐えて、梅花麗し」

今年の冬は、例年になく厳しい寒さをもたらした。そのせいか、今、咲き誇っている紅梅や白梅は、より美しく且つ勢いよく映る。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて3年目となり、利用者にとっても、本センターにとっても、思うようにいかず、もどかしい日々が今まだ続き、このことが普段の生活の中で当たり前になりつつある。この困難な状況は、負の産物だけを残しているわけではない。リモート会議やオンライン授業等の必要性から、ネットワーク環境が急速に整備された。それが「GIGAスクール構想」の急速な進展を導いた。子どもたちは、それぞれの端末を使いこなし、調べたいことをすぐに調べられ、体験したいことをいつでも間接的に疑似体験できるようになっている。

このような状況において、直接体験を豊富に提供できる私たち青少年社会教育施設の役割と存在意義は大きい。このことを自覚し、「私たちだからこそできる効果的な体験活動とはどのようなものか」探求し続けていかなければならない。また、それを利用者も期待しているだろう。

これから咲き誇る桜をはじめとする花々が、今まで以上の美しさと勢いで咲き誇ることに期待しながら、利用者の充実感と満足感に満ち溢れた笑顔の花が溢れるよう、これからも本センター職員一同力を合わせながら研究と研修を重ねていきたい。併せて、コロナ禍が明け、以前の賑わいが戻った時に、いつでもフルスロットルで突き進むことができるような力も蓄えておきたい。



研究同人

令和2年度

令和3年度

所長	長
次長兼総務課長	長
総務課長	総務係長
〃	専門員
〃	主査
研修課長	研修課長
〃	研修主任
〃	研修主任
〃	研修主任
〃	研修主事
〃	研修主事
〃	研修主事
〃	研修主事
〃	研修主事
〃	研修主事
〃	研修主事
社会教育指導員	

園田	あけみ
大園	祥子
田中	健二
西	小巻
池田	幸生
中村	智子
口ノ町	亨
石本	晃治
柳田	陽一
中村	幸一郎
下別府	明伸
内	輝久
樋之口	隆宏
駿河	純
萩原	千絵
外園	巨楠

伊藤	太
大園	祥子
柳田	昌紀
西	小巻
池田	幸生
口ノ町	亨
内	輝久
柳田	陽一
中熊	一仁
中村	幸一郎
下別府	明伸
駿河	純
田下	淳
萩原	千絵
林	直樹
南	泰圭